



Title	東京大学大学院人文社会研究科国文学研究室蔵の中世小説を中心とした古典籍の書誌調査報告(その1)
Author(s)	勝俣, 隆
Citation	教育実践総合センター紀要, 8, pp.229-239; 2009
Issue Date	2009-03-20
URL	http://hdl.handle.net/10069/25926
Right	

This document is downloaded at: 2019-09-20T18:40:26Z

調査実践報告

東京大学大学院人文社会研究科国文学研究室蔵の中世小説を中心とした古典籍の書誌調査報告（その1）

勝俣 隆（国語教育専攻）

平成20年5月1日（木）から同年9月30日（土）まで、東京都文京区本郷にある東京大学大学院人文社会研究科国文学研究室において、国内研究員としてリフレッシュ研修（国内研究）に従事した。上代文学と中世文学の両者について、調査・研究を行ったが、今回の報告は中世小説（御伽草子）の伝本調査に関するものである。なお、伝本の数量が多く、一度の報告では済まないため、数度に分けて報告することにする。また、今回の報告はあくまで書誌調査である。内容面の考察は、大分先になると思われるが、本稿の最終段階で纏めて行いたいと考える。

東京大学大学院人文社会研究科国文学研究室が所蔵する中世小説の書誌調査報告

東京大学大学院人文社会研究科国文学研究室には、質量共に日本有数の古典籍が所蔵されている。今回の研修では、その中で、筆者が専門の一つとする中世小説（御伽草子・室町物語）について、出来る限り、多数の伝本に当たり、その書誌を調査した。また、関連する舞の本等についても、併せて閲覧し、調査した。

調査に当たっては、国文学研究室が作成した蔵書目録を利用させて頂いた。なお、閲覧に当たり、東京大学国文学研究室の多田一臣教授・長島弘明教授・河野龍也助教・倉田まゆみ補佐員の皆様に大変お世話になった。様々な便宜を御図りくださった御蔭で、快適に効率的に調査が遂行できた。紙面を借りて、厚く御礼申し上げる。

以下、閲覧調査した書誌の報告をする。丸付き数字の意味は、以下の通りである。①写本・版本の区別。②所蔵者整理書名。③所蔵者整理番号。④外題。⑤内題。⑥柱。⑦刊写年次。⑧保存状態。⑨保存形態。⑩表紙の生地・色・模様。⑪見返し。⑫料紙。⑬装丁。⑭数量。⑮表紙寸法。⑯字高または匡郭。⑰表紙以外の紙数（遊紙の丁数）。⑱本文の行数。1行の字数。⑲絵の状態、数量。⑳その他（刊記・蔵書印・入手の経緯・気づき等）。略とあるのは、不明または該当項目のないものである。なお、国文学研究資料館では、挿絵の数を、絵の内容に関わらず半丁分を一面としているが、本稿では絵の内容を重視し、絵が見開き両面に渡る場合、二面ではなく、一図と数えているので、ご了解いただきたい。

1、あきみち ①写本。②あきみち。③國文學・中世・35. 3・80（受入番号 L96

365・L96366)。④なし⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。但し、表紙は痕跡のみ。⑨白紙に包む。⑩切り取られ、紺地の痕跡のみ有り。⑪原装。本文共紙。⑫鳥の子。⑬大和綴。奈良絵本⑭上下二冊。⑮上 23.7×17.2 糎、下 23.7×17.2 糎。⑯字高・字幅。17.0×13.0 糎。⑰全 41 丁(上 18 丁・下 23 丁)。⑱10 行。1 行 16～18 字ほど。⑲全十図。上冊第一図(三ウ)・第二図(七オ)・第三図(十三ウ)・第四図(十五オ)・第五図(十八ウ)、下冊第一図(八オ)・第二図(十ウ)・第三図(十二オ)・第四図(十六オ)・第五図(二十二ウ)。上冊の挿絵第二図・第三図の裏面には「あきみち」と仮名書きをしてあるのが透けて見える。本書が作成された時点で「あきみち」の書名を持っていたことは明らかであろう。⑳奥書き等なし。蔵書印「東京大學圖書印」(3.1×1.0、朱、長方形。以下、この数値は同じため、再出の場合、省略する)「國文」(朱)。国文学研究室の目録に拠れば、御巫家旧蔵本である。

2、朝日奈(朝ひな) ①写本。②あさいな。③國文學・中世・35. 3・81。(受入番号 上冊、L96367・中冊、L96368・下冊、L96369)。④なし⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。但し、表紙は下冊の痕跡のみ。⑨白紙に包む。⑩上下冊、全くなし。下冊は切り取られた紺地の痕跡のみ有り。⑪原装。本文共紙。⑫鳥の子。⑬大和綴。奈良絵本⑭上中下三冊。⑮上 23.7×17.1 糎、中 23.7×17.0 糎、下 23.3×17.2 cm。⑯字高・字幅。18.5×14.0 糎。⑰全 56 丁(上 15 丁・中 11 丁・下 20 丁)。⑱10 行。1 行 14～16 字ほど。⑲全十二図。上冊第一図(三ウ)・第二図(五オ)・第三図(七ウ)・第四図(十ウ)、中冊第一図(五ウ)・第二図(八オ)・第三図(十ウ)、下冊第一図(三ウ)・第二図(五オ)・第三図(七ウ)・第四図(九オ)・第五図(十二ウ)。中冊の挿絵第二図の裏面には「あさいな 九」と仮名書きの書名と挿絵の通し番号が見出せる。本書が作成された時点で「あさいな」の書名を持っていたことは明らかであろう。それは、下冊の表紙左脇に、「あさいな 下」の左側の大半が欠け、右側の一部が辛うじて判読できるだけ残存していることから言えることである。⑳奥書き等なし。蔵書印「東京大學圖書印」「國文」(朱)。国文学研究室の目録に拠れば、御巫家旧蔵本である。本書は、東京大学国文学研究室蔵本のための孤本である(注1)。

3、磯崎 ①写本。②いそさき。③國文學・中世・35. 3・82(受入番号 上冊、L96340・下冊、L96341)。④なし⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。但し、表紙は痕跡のみ。⑨白紙に包む。⑩切り取られ、紺地の痕跡のみ有り。⑪原装。本文共紙。⑫鳥の子。⑬大和綴。奈良絵本⑭上下二冊。⑮上 23.6×17.2 糎、下 23.6×17.3 糎。⑯字高・字幅。19.0×14.0 糎。⑰全 31 丁(上 15 丁・下 16 丁)。⑱10 行。1 行 18～19 字ほど。⑲全九図。上冊第一図(二ウ)・第二図(六ウ)・第三図(九ウ)・第四図(十二ウ)・第五図(十五オ)、下冊第一図(七オ)・第二図(八ウ)・第三図(十オ)・第四図(十二ウ)。上冊の挿絵第二図裏面には漢数字の「二」が見いだせる。⑳奥書き等なし。蔵書印「東京

大學圖書印」「國文」(朱)。国文学研究室の目録に拠れば、御巫家旧蔵本である。挿入紙片有り「この挿絵、上巻の六ウ第二図のものか?昭和41年6月)」。

4、うらしま(浦島太郎) ①写本。②うらしま。③國文學・中世・35.3・83(受入番号L96380)。④なし⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。但し、表紙はなし。⑨白紙に包む。⑩切り取られ、表紙の模様等不明。⑪原裝。本文共紙。⑫鳥の子。⑬大和綴。奈良絵本⑭一冊。⑮24.1×17.6 糎。⑯字高・字幅。18.0×15.0 糎。⑰全墨付き14丁。⑱10行。1行18～19字ほど。⑲全五図。第一図(二オ)・第二図(三ウ)・第三図(十オ)・第四図(十二オ)・第五図(十三ウ)。挿絵第五図裏面に「うらしま」と薄墨で墨書されている。⑳奥書き等なし。蔵書印「東京大學圖書印」「國文」(朱)。国文学研究室の目録に拠れば、御巫家旧蔵本である。

5、酒呑童子 ①写本。②大江山(酒呑童子)。③國文學・中世・35.3・84(受入番号 上冊、L96383・中冊、L96384、下冊、L96385) ④なし⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。但し、表紙はなし。⑨白紙に包む。⑩上中下冊、全くなし。⑪原裝。本文共紙。⑫鳥の子。⑬大和綴。奈良絵本⑭上中下三冊。⑮上 23.7×17.3 糎、中 23.8×17.2 糎、下 24.2×17.5 cm。⑯字高・字幅。上冊初丁オ 18.5×12.0 糎(初丁ウ 19.0×13.0 糎)。中冊初丁オ 18.5×12.0 糎(初丁ウ 19.0×14.0 糎)。下冊初丁オ 18.5×14.0 糎(初丁ウ 19.0×13.5 糎) ⑰墨付き全51丁(上15丁・中28丁・下8丁)。⑱初丁オ9行(初丁ウ10行。)1行16～18字ほど。⑲全十五図。上冊第一図(三オ)・第二図(五オ)・第三図(八ウ)・第四図(十二ウ)・第五図(十五オ)、中冊第一図(六オ)・第二図(八オ)・第三図(二十二オ)、第四図(二十五ウ)・第五図(二十七オ)、下冊第一図(三ウ)・第二図(五オ)・第三図(七ウ)・第四図(九オ)・第五図(十二ウ)。⑳奥書き等なし。蔵書印「東京大學圖書印」「國文」(朱)。国文学研究室の目録に拠れば、御巫家旧蔵本である。本書には錯簡がある。

6、かわちかよひ ①写本 ②かわちかよひ。③國文學・中世・35.3・85(受入番号L96381)。④なし⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。但し、表紙はなし。⑨白紙に包む。⑩切り取られ、表紙の模様等不明。⑪原裝。本文共紙。⑫鳥の子。⑬大和綴。奈良絵本⑭一冊。⑮23.8×17.1 糎。⑯字高・字幅。18.0×11.5 糎。⑰全墨付き8丁。⑱10行(初丁は9行)。1行18～19字ほど。⑲全五図。第一図(二オ)・第二図(三オ)・第三図(五オ)・第四図(六オ)・第五図(七ウ)。⑳奥書き等なし。蔵書印「東京大學圖書印」「國文」(朱)。国文学研究室の目録に拠れば、御巫家旧蔵本である。本書は、東京大学国文学研究室蔵本のみの孤本である。石川透氏によって、本書が幸若舞曲『伏見常盤』の基になったことが推定されている(注2)。

7、さゝやき竹 ①写本。②さゝやき竹。③國文學・中世・35.3・86（受入番号 上冊、L96370・中冊、L96371・下冊、L96372）。④なし⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。但し、表紙は無色の地紙のみ存。⑨白紙に包む。⑩上中下冊、全くなし。切り取られた紺地の痕跡のみ有り。⑪原装。本文共紙。⑫鳥の子。⑬大和綴。奈良絵本⑭上中下三冊。⑮上 24.2×17.8 糎、中 24.2×17.8 糎、下 24.3×17.7 cm。⑯字高・字幅。上冊 18.5×14.0 糎。中冊 18.5×14.0 糎。下冊 18.5×14.0 糎。⑰全 48 丁(上 16 丁(但し、16 丁ウは白紙)・中 17 丁・下 15 丁)。⑱9 行。1 行 14～17 字ほど。⑲全十四図。上冊第一図(二ウ)・第二図(七オ)・第三図(七ウ)・第四図(十一オ)、第五図(十五オ)、中冊第一図(通第六図)(五オ)・第二図(通第七図)(八オ)・第三図(通第八図)(十オ)、第四図(通第九図)(十三オ)・第五図(通第十図)(十五ウ)・第六図(通第十一図)(十七オ)、下冊第一図(通第十二図)(五オ)・第二図(通第十三図)(十二ウ)・第三図(通第十四図)(十五オ) なお、上冊(五オ)は、白紙になっているが、ここには本来、挿絵があった可能性がある。⑳奥書き等なし。蔵書印「東京大學圖書印」「國文」「東京大學」(丸印。1.2×1.2 糎)。国文学研究室の目録に拠れば、御巫家旧蔵本である。表紙各右上に、五(上冊)・六(中冊)・三(下冊)の漢数字あり。以前の整理番号だろうが、順序は多くの場合、現在の本文の順序と一致していない。

8、猿源氏草紙 ①写本。②さゝやき竹。③國文學・中世・35.3・87（受入番号 上冊、L96334・中冊、L96335・下冊、L96336）。④なし⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。但し、中冊表紙は半分ほど切れている。⑨白紙に包む。⑩上中下冊共に、全くなし。⑪原装。本文共紙。⑫鳥の子。⑬大和綴。奈良絵本⑭上中下三冊。⑮上 24.1×17.6 糎、中 24.1×17.7 糎、下 24.1×17.7 cm。⑯字高・字幅。上冊 19.0×14.5 糎。中冊 19.0×14.5 糎。下冊 19.0×14.5 糎。⑰全 40 丁(上 17 丁・中 11 丁・下 12 丁)。⑱10 行。1 行 15～18 字ほど。⑲本来、全十五図(現存全十四図)。上冊第一図(三オ。この挿絵は切り取られたと推測され、現存せず。根拠としては、切り取られたらしい痕跡があること、直前の本文は途中で終わっていて、内容的にも、猿源氏の紹介の場面がっても良いところであることなどが挙げられる。)・第二図(五オ)・第三図(八オ)・第四図(十三ウ)、第五図(十七ウ)、中冊第一図(通第六図)(四オ)・第二図(通第七図)(五オ)・第三図(通第八図)(八オ)、第四図(通第九図)(十ウ)・第五図(通第十図)(十一ウ)、下冊第一図(通第十一図)(二ウ)・第二図(通第十二図)(五ウ)・第三図(通第十三図)(八ウ)・第四図(通第十四図)(十一オ)・第五図(通第十五図)(十二ウ)。⑳奥書き等なし。蔵書印「東京大學圖書印」「國文」「東京大學」(丸印)。国文学研究室の目録に拠れば、御巫家旧蔵本である。上冊・初丁オに白の紙片があつて、次のように述べる。「「いわしうり」とあつたのをあこぎ、とし、さらに猿源氏草紙トスル事 完本 」。

9、しやうほう ①写本。②しやうほう。③國文學・中世・35.3・88（受入番号 上

冊、L96360・下冊、L96361)。④なし⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。但し、表紙は現存せず。⑨白紙に包む。⑩表紙は剥落して不明。なお、上下共に、表紙の半分は切り取られている。⑪原装。本文共紙。⑫鳥の子。⑬大和綴。奈良絵本⑭上下二冊。⑮上24.2×17.7 糎、下24.2×17.6 糎。⑯字高・字幅。19.5×14.5 糎。⑰全28丁(上15丁・下13丁)。⑱10行。1行18～21字ほど。⑲全十図。上冊第一図(三オ)・第二図(五オ)・第三図(七オ)・第四図(十ウ)・第五図(十三ウ)、下冊第一図(通第六図)(二オ)・第二図(通第七図)(四ウ)(この挿絵は、緑の床にひっかき傷が見られる。)・第三図(通第八図)(六ウ)・第四図(通第九図)(九ウ)(剥離した絵の裏側に「しやうほう 九」と墨書されている。)。⑳国文学研究室の目録に拠れば、御巫家旧蔵本である。挿入紙片有り「しやうほう(仮題)(青ペン) 二冊ノ内、下巻一冊(赤鉛筆)」。本書は、東京大学国文学研究室蔵本のみ孤本であって、石川透氏に紹介・翻刻がある(注3)。

10、観世音菩薩往生浄土本縁経 ①写本 ②早離速離。③國文學・中世・35.3・90(受入番号L96348)。④なし⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。但し、表紙はなし。⑨白紙に包む。⑩剥離して、表紙の模様は不明であるが、一部紺地が残る。⑪原装。本文共紙。⑫斐紙。⑬大和綴。奈良絵本⑭一冊。⑮24.2×17.6 糎。⑯字高・字幅。18.5×14.5 糎。⑰全墨付き14丁。遊紙2丁。⑱10行。1行18～20字ほど。⑲全五図。第一図(二ウ)・第二図(五ウ)・第三図(十一オ)・第四図(十二ウ)・第五図(十四オ)。⑳奥書き等なし。蔵書印「東京大學圖書印」「國文」(朱)。国文学研究室の目録に拠れば、御巫家旧蔵本である。挿入紙片有り。「(早離速離)一帖 観世音菩薩往生浄土本縁経 宝物集早離速離説話(古典文庫「宝物集」九冊本 一七四頁 古写本 九八頁)」

11、鶴の草子 ①写本 ②鶴の草子。③國文學・中世・35.3・91(受入番号L96354～L96358)。④なし⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。但し、表紙はなし。⑨白紙に包む。⑩剥離して、表紙の模様は不明であるが、一部紺地が残る。⑪原装。本文共紙。⑫斐紙。⑬大和綴。奈良絵本⑭一冊。⑮第一冊24.2×17.7 糎。第二冊24.3×17.7 糎。第三冊24.25×17.7 糎。第四冊24.2×17.7 糎。第五冊24.2×17.7 糎。⑯字高・字幅。第一冊18.5×14.0 糎。第二冊18.5×14.0 糎。第三冊18.5×14.0 糎。第四冊19.0×14.0 糎。第五冊19.0×14.0 糎。⑰全墨付き75丁(第一冊14丁。第二冊13丁。第三冊14丁。第四冊17丁。第五冊17丁。遊紙1丁(第二冊の後ろ)。⑱9行。1行18字ほど。⑲現存全二十一図(本来は二十五図あったと推測される。)。第一冊、第一図(二オ)・第二図(四オ)・第三図(痕跡のみ、六オ)・第四図(七ウ)・第五図(十二オ)。第二冊、第六図(二ウ)・第七図(五ウ)・第八図(八ウ)・第九図(十オ)・第十図(痕跡のみ、十一ウ)、第三冊、第十一図(一ウ)・第十二図(三ウ)・第十三図(七オ)・第十四図(十オ)・第十五図(十二オ)、第四冊、第十六図(二ウ)・第十七図(痕跡のみ、六オ)・第十

八図(痕跡のみ、六ウ)・第十九図(八オ)・第二十図(十三ウ)、第五冊、第二十一図(四ウ)・第二十二図(六オ)・第二十三図(七ウ)・第二十四図(十一ウ)・第二十五図(十四ウ)。なお、第二十二図と二十三図の裏面には、それぞれ「つる廿二」「つる廿三」という注記があり、脱落を考えると、番号が一致する。⑩奥書き等なし。蔵書印「東京大學圖書印」(長方形・種・3.5×1.0 糎)「國文」(朱)。「東京大学」(丸印)。国文学研究室の目録に拠れば、御巫家旧蔵本である。

12、猫の草子 ①写本 ②猫の草子。③國文學・中世・35. 3・92 (受入番号 L96359)。④なし。⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。但し、表紙はなし。⑨白紙に包む。⑩現存せず、不明。⑪なし。⑫楮。⑬大和綴。奈良絵本。⑭一冊。⑮24.2×17.8 糎。⑯字高・字幅。18.5×13.0 糎。⑰全墨付き16丁半。⑱10行。1行18字ほど。⑲全五図。第一図(五ウ、鼠が和尚に訴える場面。本来、第三図。)・第二図(六ウ、鼠が集まって相談する場面。本来、第四図。)・第三図(十ウ、猫が高札の周りに集まっている場面。本来、第一図。)・第四図(十四ウ、町人と武士の会話の場面。本来、第二図。)・第五図(十五ウ、鼠が和尚に近江に移動することを告げる場面。本来通り、第五図。)。⑳奥書き等なし。蔵書印「東京大學圖書印」「國文」(朱)。国文学研究室の目録に拠れば、御巫家旧蔵本である。本書には、錯簡がある。次のようなメモがある。「猫の草子(完本)16丁錯簡アリ、左ノ如クトジカヘルコト→9 10 4 3 15 16 7 8 11 12 5 1 6 2 1314 17」。内容的には、渋川版と大差ないが、本文は細かい点がかかなり異なる。挿絵は、渋川版よりも、多くの点で興味深い。例えば、鼠は、和尚の夢に登場する時は、着物を着て登場するが、そうでない時は、鼠そのままの姿で描かれ、明らかに意図的に区別して、描写されている。渋川版では、そうした鼠の服装の描き分けは見られない。また、猫を放し飼いにするというお触れの高札を猫が集まって看ている様子も、猫が人間的に扱われていて面白い。

13、松竹 ①写本 ②松竹物語。③國文學・中世・35. 3・93 (受入番号 L96379)。④なし。⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。但し、表紙はなし。⑨白紙に包む。⑩剥離して、裏表共に表紙の様子は不明。⑪原装。本文共紙。⑫鳥の子。⑬大和綴。奈良絵本。⑭一冊。⑮24.3×17.6 糎。⑯字高・字幅。19.0×12.5 糎。⑰全墨付き7丁。遊紙5丁。⑱9行。1行16～18字ほど。⑲全三図。第一図(二オ)・第二図(四オ)・第三図(五オ) なお、第三図の裏側に「馬上の二人の武将が組み合う場面の図が描かれている。内容とは全く一致しない。単なる手すさみか、それとも他の物語の挿絵の下書きか不明。⑳奥書き等なし。蔵書印「東京大學圖書印」「國文」(朱)。国文学研究室の目録に拠れば、御巫家旧蔵本である。

14、むらくも。 ①写本 ②むらくも。③國文學・中世・35. 3・94 (受入番号 L

96378)。④なし⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。但し、表紙はなし。⑨白紙に包む。⑩剥離して、裏表共に表紙の様子は不明。⑪原装。本文共紙。⑫鳥の子。⑬大和綴。奈良絵本⑭一冊。⑮24.2×17.5 糎。⑯字高・字幅。19.5×11.5 糎。⑰全墨付き11丁。⑱9行。1行15～17字ほど。⑲全五図。第一図(二ウ)・第二図(四オ)・第三図(六オ)・第四図(八ウ)・第五図(十一オ) 絵はすべて金泥の雲を描いた美しいものである。また、各挿絵の裏には、「むらくも」と薄墨で墨書してある。⑳奥書き等なし。蔵書印「東京大学図書」(外径3.5×3.4 糎。内径3.25×3.2 糎。朱の方形)「國文」(朱)「東京大学」(丸印)。国文学研究室の目録に拠れば、御巫家旧蔵本である。本書は、東京大学国文学研究室蔵のみの孤本であり、市古貞次氏に翻刻と解題がある(注4)。

15、ちよの物語(千代野の草子) ①写本。②ちよの物語。③國文學・中世・35.3・95(受入番号 上冊、L96349・下冊、L96350)。④なし⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。但し、表紙は現存せず。⑨白紙に包む。⑩表紙は剥落して不明。⑪原装。本文共紙。⑫鳥の子。⑬大和綴。奈良絵本⑭上下二冊。⑮上24.2×17.6 糎、下24.3×17.6 糎。⑯字高・字幅。上冊18.5×14.0 糎。下冊18.5×14.0 糎。⑰墨付き全22丁(全23丁)(上11丁・下11丁、他に下冊に遊紙1丁)。⑱10行。1行20～21字ほど。⑲全九図。上冊第一図(二オ)・第二図(三オ)・第三図(四ウ)・第四図(九ウ)、下冊第一図(通第五図)(三ウ)・第二図(通第六図)(四ウ)・第三図(通第七図)(六オ)・第四図(通第八図)(七オ)・第五図(通第九図)(七ウ)。⑳国文学研究室の目録に拠れば、御巫家旧蔵本である。挿入紙片有り「不明→91年12月20日判明トアリ」(鉛筆書き)。なお、八ウと九オの間に剥離した挿絵が一枚あり、裏に「ほてんこくかきたし」とある。これは、恐らく「梵天国描き足し」で、『梵天国』の挿絵として一枚描き足したものの意と思われる。「ちよの物語」の絵と比べると、登場人物が全く異なり、人物の大きさも、「ちよの物語」の方が大きい。霞の形や線、金雲の描き方も異なる。「ちよの物語」は、金雲が霞の下に突き出た形だが、梵天国とある方は、金雲が霞の中に入り込む形である。他にも、登場人物の髪型が異なり、廂が、「ちよの物語」が木の板であるのに対し、梵天国とある方は、菱形のタイルである点も異なる。両者の水紋の描き方も異なる。以上の点から、本挿絵は、『梵天国』の挿絵が一枚紛れ込んだものと推測される。

16、清水物語 ①写本。②清水物語。③國文學・中世・35.3・101(受入番号 上冊、L96342・中冊、L96343・下冊、L96344)。④なし⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。但し、表紙は切れて一部しか残らない。⑨白紙に包む。⑩上中下冊共に、剥離して現存せず。一部の残存部分は紺地。⑪原装。本文共紙。⑫斐紙。⑬大和綴。奈良絵本⑭上中下三冊。⑮上24.3×17.6 糎、中24.3×17.7 糎、下24.3×17.7 cm。⑯字高・字幅。上冊18.5×14.0 糎。中冊18.5×14.0 糎。下冊18.5×14.0 糎。⑰墨付き全66丁半(全74丁)(上20丁(遊紙4丁)・中20丁(遊紙2丁)・下26丁半(27ウは白紙))。

⑱10行。1行17～19字ほど。⑲本来、全十五図。上冊第一図（三オ）・第二図（十一ウ）・第三図（十四ウ）・第四図（十八オ）、第五図（二十ウ）、中冊第一図（通第六図）（二オ）・第二図（通第七図）（四オ）・第三図（通第八図）（八ウ）、第四図（通第九図）（十二オ）・第五図（通第十図）（十七ウ）、下冊第一図（通第十一図）（四オ）・第二図（通第十二図）（十ウ）・第三図（通第十三図）（十五ウ）・第四図（通第十四図）（十八ウ）・第五図（通第十五図）（二十五オ）。⑳奥書き等なし。蔵書印「東京大學圖書印」「國文」「東京大學」（丸印）。国文学研究室の目録に拠れば、御巫家旧蔵本である。上冊・二ウと三オの間に紙片があつて、次のように述べる。「清水 ぬんや 両方アリ」恐らく、「清水か塩谷か不明」の意味だろう。しかしながら、挿絵の第七図に裏に「清水」と墨書されているので、「清水物語」であることは動かない。また、中冊の表紙の左側に、文字の右側一部が残り、復元すると「しみつくわんしや」と書いてあつたと推測される。従つて、本書の原題は、「清水冠者」であつた可能性があるらう。

17、秋月物語 ①刊本。②秋月物語。③國文學・中世・35. 3・1（東京帝國大學附屬図書館 大正十四年登記 文14655）。④秋月物語 上（中・下）。題箋は、無地の白で、原・重・刷・左。上は15.5×3.5 糎、中と下は共に15.4×3.4 糎。⑤秋月物語 上（中・下）。⑥秋月上（中・下）。⑦江戸中期。⑧良好。⑨紺の帙入り。帙題、「秋月物語」。⑩薄紺地に卍繋ぎ蔓草模様。⑪原装。本文共紙。⑫楮紙。⑬袋綴⑭上中下三冊。⑮上26.6×18.0 糎、中26.6×17.9 糎、下26.6×17.9 糎。⑯匡郭（内側）。上冊20.2×16.0 糎。中冊20.4×15.9 糎。下冊20.4×15.9 糎。⑰全96丁（上33丁・中31丁・下32）。⑱12行。1行19～24字ほど。⑲全十六図。上冊第一図（三ウ）・第二図（十一オ）・第三図（十四ウ）・第四図（十八オ）、第五図（二十四ウ）、第六図（二十八ウ）、中冊第一図（通第七図）（六ウ）・第二図（通第八図）（十三オ）・第三図（通第九図）（十七オ）、第四図（通第十図）（二十四オ）・第五図（通第十一図）（三十一終オ）、下冊第一図（通第十二図）（四ウ）・第二図（通第十三図）（十一ウ）・第三図（通第十四図）（十七ウ）・第四図（通第十五図）（二十八オ）・第五図（通第十六図）（三十一ウ）。⑳刊記等なし。蔵書印「東京帝國大學圖書印」（外径5.9×5.9 糎、方形・朱）「平出圖書館印」（平出鏗二郎氏蔵書印）。上冊見返しに「平出印 三冊繪入上中書入 元本（以下判読できず）」（鉛筆書き）とある。実際、朱による書き込みが多数見られる。

18、秋月物語（京極大納言物語）。①写本 ②秋月物語（京極大納言物語）。③國文學・中世・35. 3・14（受入番号 L23264）。④現存せず。題箋は剥離したと思われるが、痕跡は不明確。⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。但し、表紙はなし。⑨西洋式のハードカバーの帙入りで、背に「京極大納言物語」と墨書。⑩青磁と茶の地に青で格子飾り模様。⑪原装。本文共紙に金箔を散らしたもの。⑫間似合紙。⑬袋綴。奈良絵本⑭一冊。⑮16.0×23.3 糎。横本。⑯字高・字幅。13.0×19.5 糎。⑰全墨付き26丁。

⑮13行。1行13～14字ほど。⑯全三図。第一図（四ウ）・第二図（九ウ）・第三図（十七ウ。）絵はすべて薄墨で描き、顔を黒く塗っており、下書き風。奈良絵を模したのか、下書きそのものか不明。挿絵の裏に特に注記はない。⑰奥書き等なし。破損による補修の跡有り。蔵書印「東京帝國大學圖書印」（外径6.9×6.9糎。朱の方形）「竹清蔵」（長方形印、外径3.9×1.7糎。内径3.8×1.55糎）。挿入紙片は「秋月物語ノ原本ナラムト云ハム。京極大納言物語ノ最後、都上リノ条」とペン書き。本書は、末尾のみの零本である。

19、秋月物語。①写本 ②秋月物語。③國文學・中世・35. 3・73（文学部 4801150410）。④なし。⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸後期。⑧良好。⑨特になし。⑩無地の茶色。⑪原装。本文共紙。⑫半紙。⑬袋綴。⑭下のみの一冊。⑮25.0×18.6糎。⑯字高・字幅。18.0×14.5糎。⑰全墨付き70丁。⑱12行。1行18～23字ほど。⑲なし。⑳奥書き等なし。蔵書印「帯江文庫」（外径6.7×2.4糎。長方形）。挿入紙片に「六十一 大江なる契りか^をさ^きねて^の松代迄^{みどり}孫子を祝ふ榮て年祝ふらん」の歌が書かれている。また、「㊦内容的には、秋月の中・下巻である。板本と比べると、本文は大きく異なっている。」とも紙片に書かれている。さらに、裏表紙に「慈恩寺村 明覺坊住職 矢作隆清」と所有者名が墨書されている。

20、秋月物語（京極中納言物語）。①写本 ②秋月物語（京極中納言物語）。③國文學・中世・35. 3・98（L 231717）。④京極中納言物語。題箋は、「京極中納言物語二」（白無地、原・重・書・左。18.5×3.0糎）。⑤京極中納言物語 二。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。⑨紺帙入り。帙題「京極中納言物語 卷二」。⑩無地の茶色。⑪原装。本文共紙。⑫半紙。⑬袋綴。⑭卷二のみの一冊。⑮27.4×17.5糎。⑯字高・字幅。18.0×14.0糎。⑰全73丁（墨付き70丁。識語1丁。内表紙1丁。遊紙1丁。）丁。⑱10行11行19～20字ほど。⑲なし。⑳奥書き「京極中納言物語（異本秋月物語）寫本三冊上中者松井先生御所蔵也近古小説集者卷二缺之今借覽之序為後日書寫之功畢 昭和十一年六月八日夜 正義識（蔵書印）」と、裏表紙にあり。また、七十丁目に、「以上墨付七十葉」の朱書有り。なお、表紙の張り紙には、「松井本より影写 京極中納言物語卷二 東京大学赤門前木内書店 電話（811）5573 金二五、〇〇〇円」とあり、購入の経緯が分かる。通常、本書は、「京極大納言物語」の別名で知られているので、大納言でなく、中納言とした本書の題名は珍しい。蔵書印「片寄蔵書」（外径2.1×2.1糎、内径2.0×2.0糎、方形、朱印、書写者である片寄正義の蔵書印）「宮崎蔵書」（外径2.5×2.5糎、方形、朱、手書）「松井蔵書」（外径2.0×4.0糎、楕円形、手書き）「東京大學圖書」（3.3×3.3糎。方形、朱印）「国文」。

21、秋夜長物語（秋の夜の長物語） ①写本。②秋夜長物語。③國文學・中世・35. 3・2B（受入番号 上冊、L90215・中冊、L90216・下冊、L90217）。④

なし。題箋は金無地、原・単・左であるが、文字が記入されていない。⑤なし。⑥該当せず。⑦江戸初～中期。⑧良好。⑨桐箱入り。蓋 41.0×28.9×12.9 糎。中箱 39.2×27.0×13.6 糎。箱書き（中箱裏）「鈴木京筋領肝入 平左衛門 勤休」。⑩紺地に白で唐花・兎模様。⑪原装。金網目地。⑫鳥の子。⑬卷子本。奈良絵巻。⑭上中下三巻。⑮上 31.8×1397.3 糎、中 31.8×1073.7 糎、下 31.8×1326.1 糎。⑯字高。上巻・中巻・下巻共に 27.5 糎ほど。⑰上巻、料紙 30 葉。本文墨付き部分 20 葉。料紙の長さ（単位糎）、（見返し 15.7）46.5・51.5・51.8・31.8・（挿絵第一図 50.3）・19.5・51.5・51.7・50.5・（挿絵第二図 50.0）・50.8・51.8・42.9・（挿絵第三図 50.1）・51.5・（挿絵第四図 50.5）・50.3・51.5・7.4・（挿絵第五図 50.0）・44.2・51.3・（挿絵第六図 50.1）・50.6・（挿絵第七図 50.0）・40.3・44.5・（挿絵第八図 49.4）・36.0（余白）・（軸 2.1）。中巻、24 葉。本文墨付き部分 12 葉。料紙の長さ（単位糎）、（見返し 25.8）・47.8・51.5・44.0・32.3・（挿絵第九図 50.2+50.6）・46.6・8.4・（挿絵第十図 49.7+50.6）・42.2・（挿絵第十一図 49.7+50.8）・51.4・51.8・51.5・38.2・（挿絵第十二図 50.0+50.3）・46.5・（挿絵第十三図 49.6+49.5）・33.5（余白）・1.9（軸）。下巻、料紙 33 葉。本文墨付き部分 20 葉。料紙の長さ（単位糎）、（見返し 25.6）・50.8・47.8・（挿絵第十四図 50.0+50.3）・51.0+30.4・（挿絵第十五図 50.1+50.0）・20.2・51.5・30.4（挿絵第十六図 49.6）・21.0・51.8・8.3・（挿絵第十七図 49.8+50.5）・43.0・51.7・10.0・（挿絵第十八図 50.0）・52.4・（挿絵第十九図 50.0）・40.3・51.3・51.8・51.3・51.5・20.4・（挿絵第二十図 50.0）・29.9・29.5（余白）・2.2（軸）。綴紐、上巻 82.5 糎・中巻 84 糎・下巻 86 糎。⑱全二十図。上巻、八図。挿絵第一図（稚子と僧）挿絵第二図（僧桂海が稚子梅若を覗くところ）挿絵第三図（僧が稚子に文を渡すところ）挿絵第四図（僧、文を読むところ）挿絵第五図（稚子出かけるところ）挿絵第六図（僧と稚子の会話）挿絵第七図（稚子が僧に逢いに行くところ）挿絵第八図（後朝の文）。中巻、五図。挿絵第九図（僧が稚子を迎えようとしたが、山伏姿の天狗に浚われる場面）挿絵第十図（戦闘場面）挿絵第十一図（僧の群れと二人の僧）挿絵第十二図（寺門と山門の争い）、挿絵第十三図（寺門の火災での消失）。下巻、七図。挿絵第十四図（天狗に浚われ、洞窟に幽閉された稚子）挿絵第十五図（烏天狗と稚子）挿絵第十六図（泣く稚子）挿絵第十七図（稚子と僧）挿絵第十八図（稚子の死）挿絵第十九図（庵室）挿絵第二十図（回向）。⑳奥書き等なし。蔵書印「東京大學圖書印」（1.0×3.5 糎）「國文」。

22、あまやどり ①刊本。②あまやどり。③國文學・中世・35.3・26（L52090）。④〈繪入〉あまやどり 上（中・下）（題箋、16.5 糎×3.5 糎。原・重・刷・左）角書の「〈繪入〉」には黒枠がある。⑤しぐれのえん 上（中・下）。⑥あま 上（中・下）丁数。⑦天和二年（1682年）。⑧良好。⑨紺の帙入り。帙題「あまやどり 天和四年鱗形屋版菱川師宣畫」。帙題は「天和四年」とするが、刊記は「天和二年」とある。そこで、刊年は刊記によった。⑩青緑色地に卍繋ぎ唐草模様。⑪原装。本文共紙。⑫楮紙。⑬袋綴⑭上中下三冊。⑮上 27.0×18.4 糎、中 27.0×18.5 糎、下 27.1×18.5 糎。⑯匡郭（内側）。上冊 22.0

×16.6 糎。中冊 22.3×16.7 糎。下冊 22.0×16.8 糎。⑰全 36 丁半(上 12 丁半・中 12 丁・下 12 丁)。⑱14 行。1 行 33～35 字ほど。⑲全十八図。上冊第一図(二才)・第二図(四才)・第三図(六才)・第四図(八才)、第五図(十才)、第六図(十二才)、中冊第一図(通第七図)(二才)・第二図(通第八図)(三才)・第三図(通第九図)(五才)、第四図(通第十図)(七才)・第五図(通第十一図)・第六図(通第十二図)(十一才)、下冊第一図(通第十三図)(二才)・第二図(通第十四図)(三才)・第三図(通第十五図)(五才)・第四図(通第十六図)(七才)・第五図(通第十七図)(九才)・第六図(通第十八図)(十一才)。⑳刊記「天和二年正月吉日 江戸傳馬町三町目 うろこかたや板」。蔵書印「東京帝國大學圖書印」(外径 5.9×5.9 糎、方形・朱)「甘露堂蔵」(朱、方形、3.0×3.0 糎)、「久彌蔵」(尾崎久彌蔵書印であろう。朱、長方形、縦 2.5×横 1.2 糎)、「野(?)綿(?)蔵書」(楕円形、朱、縦 4.2×横 2.1 糎、色薄く不鮮明で判読できず)。「水谷文庫」(朱、長方形、縦 4.6×横 1.0 糎) 墨による表紙の汚れがある。

(以下、次号に続く。)

注

- (1) 徳竹由明氏による翻刻が『三田国文』34号(平成13年9月)にある。「東京大学国文学研究室蔵奈良絵本『朝日奈』翻刻・解題」
- (2) 石川透「室町物語と幸若舞曲」(『国語と国文学』69巻5号、平成4年5月)
- (3) 石川透「東京大学国文学研究室蔵『しやうほう』の意義」(『慶応義塾大学日吉紀要・人文科学』17[平成14年5月])。
- (4) 市古貞次「むらくも(翻刻・解題)」(『国文白百合』第1号、昭和45年3月)。また、室町時代物語大成の13巻にも翻刻された。